

重度の歯周炎に罹患した患者にデジタルデンチャーにて機能回復を図った一症例  
A case of functional recovery using digital dentures in a patient  
with severe periodontitis



山中 佑介 Yusuke Yamanaka  
日本臨床歯科 CAD/CAM 学会 関西東海支部  
山中歯科医院 (愛知県名古屋市)

Information Technology(IT)が躍進する昨今の社会において、歯科医療界においてもデジタル化が推進されている。義歯による補綴治療も、その裨益を受け処置法が確立されてきた。

しかし、我々の臨床では、補綴分野におけるデジタル治療は普及してはいるが、義歯補綴への応用は少ないと考える。理由としては、製作にかかる費用と臨床現場での需要の懸隔が、デジタルデンチャーの普及を遅らせていると思われる。しかしデジタルデンチャーは、十分な設備と操作の流れさえ習得すれば、迅速に精度の高い補綴物を製作することが可能な手法であり、今後の歯科臨床の一助を担うと考える。

この治療法において演者は、デジタルソフト上(denca system)で人工歯排列を行い、cara Print 4.0 にてプリンティングを行う手法を用いてデジタルデンチャーを製作している。この行程は約 3 時間で完了する。これは咬合位を喪失した事例に対して、即時に義歯を装着させる場合、経時的に大きな利点になり得る。本講演では重度歯周炎患者の抜歯即時義歯製作にデジタルデンチャーを利用した症例を通して、デジタルデンチャーの臨床的意義について私見を述べたい。